

平成30年大網白里市議会

第1回定例会市長事務方針

2月20日から3月19日まで、市議会第1回定例会が開催されました。開会日に市長から平成30年度の事務方針が述べられましたので、概要を掲載します。なお、可決議案等詳細は市ホームページをご覧ください。

当初予算編成・財政

本市の財政見通しは、基幹財源である市税の減少が見込まれるほか、地方交付税も国全体で総額が抑制される傾向にあり、厳しい状況が続くと予想されます。

一方、歳出面では、市民の安全・安心の確保、人口減少・少子化対策、都市基盤の整備など、市の発展に欠かせない重要な施策が山積し、財政需要はますます増大することが見込まれます。

このため、平成30年度当初予算案では、第5次総合計画の後期基本計画に掲げた施策の着実な推進を目標として、「早期完成が期待される継続事業の推進を優先し、新規事業は極力抑制すること」「扶

助費等の義務的な経費は、必要最小限の事業費を計上すること」「財政調整基金等からの繰入金可能な限り抑制し、基金残高の確保に努めること」の3項目を基本方針として編成を行いました。

みどりが丘市有地を活用した出産・子育てを支援するまちづくり事業

本事業については、昨年、実施した民間事業者の選考審査の結果を踏まえ、事業規模や事業手法などについて見直しを行うとともに、子育て支援施設等の整備が必要となる基本設計業務に着手しました。

今後は、子育て支援施設の整備を優先的に進めるにあたり、国や県の補助金の確保の問題や具体的なスケジュール

消防防災

などを十分検討しながら適切に事業を推進します。

四木13区地内の築山の整備については、実施設計のほか、地権者の協力により用地の取得に向けた手続きを進めています。今後、国の交付金を活用し、早期完成に向け整備を進めます。

また、市では、東日本大震災の教訓を踏まえ、これまで津波避難訓練と併せた総合的な防災訓練を行っていましたが、訓練の考え方を見直し、今後は、それぞれの地域に応じた実践的な訓練となるよう、地域コミュニティが形成されている小学校区を単位に総合防災訓練を実施したいと考えています。

なお、津波避難訓練および土砂災害避難訓練については、引き続き対象となる地域において実施し、自助、共助、公助が連携した災害に強いまちづくりを進めます。

社会福祉

第3次地域福祉計画は、本市の現状や市民アンケート、地域座談会での意見などをもとに素案を取りまとめ、パブリックコメントを実施しているところです。

子育て支援

今後、市民の皆さんから寄せられた意見等を踏まえて計画を策定し、平成30年度以降本計画に基づき相談支援体制の拡充や市民参加活動の促進、福祉諸制度の安定運営など、各施策の横断的な連携を図りながら具体的な取組みを進めていきます。

保育所の待機児童の解消に向け、民間保育事業者への支援を実施しています。1月には、みどりが丘地区で1・2歳児を対象とする地域型保育施設「小規模保育ピッコロ」が開園し、4月には、小中地区の「こなか保育園」が認可保育所に移行する予定です。

今後も、子どもの数と保育ニーズを把握しながら、待機児童の解消に向けた取組みを続けます。

また、増穂保育所隣接地に整備を進めている児童福祉施設は、11月の完成に向け工事を進めています。本施設では、「簡易マザーズホーム」「子育て支援センター」「一時預かり保育」「小規模保育」などの事業を実施する予定であり、今後、施設の管理・運営方法や職員の配置体制などに

高齢者福祉

ついて十分検討し、開園に向け準備を進めます。このほか、小学校に入学する児童を対象に実施している学用品費等の就学援助については、入学前の本年3月に支給を行います。今後も、子育て環境の改善や子育て支援策の充実に努めます。

平成30年度から32年度を計画期間とする第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画は、市介護保険運営協議会で協議いただき、計画案を取りまとめたうえで、計画案の達成状況などを踏まえ、引き続き、地域包括ケアシステムの推進に重点を置いた「高齢者の活躍できるまちづくり」「介護が必要になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指します。

また、生活支援体制の整備については、地域の支え合い活動を広げていくため「ささえあいのまちづくりフォーラム」やワークショップを開催し、事業の周知を図ってきたところであり、今後は、関係団体と市民とが話し合う場となる協議体を設置するとともに、推進役である生活支援コーディネーターの配置を進め、地域課題の解決に取組みます。

健康づくりへの取組み
本年度から取組んでいる「健康ポイント事業」は、多くの市民の皆さんに参加いただき、このうち目標を達成した延べ525人の方々から各

賞への応募をいただきました。引き続き、市民の皆さんが主体的かつ継続的に健康づくりに取組めるよう事業を推進します。また、大網病院および医師会の協力により本年度から導入した胃内視鏡検査は、1月末現在で374人の方々にご利用いただきました。今後も、市民の皆さんへのさらなる周知・啓発を図り、各種がん検診と併せ、がんの早期発見、早期治療につなげます。

さらに、平成30年度は新たに「こころの健康づくり」にも目を向け、市独自の自殺対策推進計画を策定し、悩みを抱えている方々が必要な支援を受けられるよう、生きることに対する包括的な支援を進めます。

国民健康保険の広域化に伴い、4月から県が市町村とともに国保財政の運営主体となることから、今議会において、県が推計した納付金や標準保険料率に準じて編成した国民健康保険特別会計予算案と、広域化に伴う関係条例の改正案を提出しました。なお、平成30年度の国保税額については、県から示された標準保険料率等の確定値をもとに検討を進め、第2回定例会において審議していただきたいと考えています。

また、各市町村は、引き続き、加入資格の管理、国保税の賦課、徴収および保健事業の進展を図ることとされており、これらの事業を効率的かつ効果的に実施するため、健康・医療情報を活用したデー

公共交通

タヘルス計画および第3期特定健康診査等実施計画の策定を進めています。平成30年度からは、これらの計画に基づき、生活習慣病の予防、早期発見および重症化の予防などの取組みを進めます。コミュニティバス、白里地区の新路線バスについては、本年中に事業者との協定期間が満了となります。このうち、コミュニティバスは、昨年11月末に公募型プロポーザルを実施し、現行の運行事業者である小湊鉄道(株)と引き続き3年間の協定を締結することで合意に至りました。また、白里地区の公共交通は、2月に開催した地域公共交通活性化協議会において新たな交通形態について協議を行った結果、地区内を循環するバスを導入することとなりました。今後、10月からの導入に向け、作業を進めます。

なお、大網ロータリークラブから寄付の申し出をいただいた大網病院前バス停の待合所については、平成29年度内の完成・引渡しに向け、設置作業が進められているところです。

米の生産調整については、主食用米の安定供給に向け、県農業再生協議会から提示される生産目安に基づき、飼料用米の作付目標の達成に努めるとともに、飼料用米を生産する農業者の経営安定のため、国および県に対し補助金の拡充・新設を要望します。

また、有害鳥獣による農作物等への被害対策として、捕獲器等の確保を図るとともに、猟友会等の関係団体と連携しながら、被害防止に努めます。このほか、山辺地区の農業基盤整備事業については、国庫補助事業の採択に向け、地元の方々と関係機関との協議を進め、申請に必要な各種計画の策定を進めます。(3面に続く)

協働のまちづくり

また、事業用太陽光発電設備について、市では、独自に設備の設置や管理に当たり事業者が配慮すべき事項を示す「ガイドライン」の策定作業を進めています。今後は、このガイドラインにより、本市の環境や景観の保全、さらには災害の防止を図ります。

住民参加、協働のまちづくりを効果的・円滑に進めるため、設置準備を進めていた「市民活動支援センター」が4月に開設します。今後は、地域のまちづくりを支援するための情報共有の場、市民活動団体と行政をつなぐ場として、本センターを中心に、市民活動の相談や助言、情報の収集や提供を行います。

米の生産調整については、主食用米の安定供給に向け、県農業再生協議会から提示される生産目安に基づき、飼料用米の作付目標の達成に努めるとともに、飼料用米を生産する農業者の経営安定のため、国および県に対し補助金の拡充・新設を要望します。

また、有害鳥獣による農作物等への被害対策として、捕獲器等の確保を図るとともに、猟友会等の関係団体と連携しながら、被害防止に努めます。このほか、山辺地区の農業基盤整備事業については、国庫補助事業の採択に向け、地元の方々と関係機関との協議を進め、申請に必要な各種計画の策定を進めます。(3面に続く)

大網病院前バス停留所に上屋が設置されました



このバス停留所上屋は、大網ロータリークラブ結成20周年記念事業の一環として同クラブから寄贈を受けたもので、バス利用者が快適に乗降することができるように大網病院前バス停留所(白里海岸方面行き)に設置されました。

企画政策課政策推進班 ☎0475(70)0315



▲整備中の児童福祉施設(イメージ)